

特集

# フレッシューズ特集： 皮膚科鉄人を決めた1例に学ぶ！ 決定版！サブスペシャルティ選択指南

羅針盤

## 凡人は模倣し天才は盗む



安部正敏

Abe Masatoshi

医療法人社団 廣仁会  
札幌皮膚科クリニック

医師たるもの生涯学習は必須であり、常に最新知識を模索し患者に安全で最善の医療を提供することが責務である。そのためには、常に“学ぶ”姿勢を持ち続けることが重要であり、本書はまさにうってつけである。古語では“学ぶ”を“まねぶ”と読む。“まねぶ”は名詞“まね”に動詞をつくる接尾語“ぶ”がついたものであり、知識の習得は模倣から始まるということになる。

ただし、皮膚科学を極めるうえでこの“模倣”は結構むずかしい。まず基本は教科書を精読することであろう。古い話で恐縮であるが、筆者の叔父は小児科医であり血液学を専門とした。当時は化学療法も十分ではなく、患児に付きっきりで治療を行っても幼い命が失われる現場であった。昔も今も勉強嫌いの筆者が小学生時分に神妙に教科書を漁々読んでみると、叔父は「教科書などは重要ではない。教科書に書いてある治療では到達点が決まってしまう。教科書に書いていないことを探求することが重要であり、多くの命を救うこととなるのだ」とつぶやい

た。筆者が医学の道を志す一つのエピソードであるが、これは医師を目指せば教科書を読まなくてもよいイコール勉強しなくてよい！と早とちりしたことによる。しかし、今考えるとこの言葉は幽遠ながら真をついている。では、体系化された教科書ではなく論文を読むことは“模倣”になるのか？確かに患者の診断がつかぬ場合多くの論文に目を通すことは大きな力となる。研究論文の Materials and Methods を見ながら追試することは新たな知見を得るヒントとなろう。しかし、大きな落とし穴は論文に書いてあることがすべて正しいことではないことである。これは悪意をもって書かれたわけではなく、時間軸により真実が明らかになることなどによる。

ならば社会に貢献する皮膚科医として成長するためにはどうすればよいのか？“凡人は模倣し天才は盗む”とは、かのピカソが残した言葉である。この言葉を筆者なりに解釈すると、凡人皮膚科医は“模倣”止まりであるが、天才皮膚科医は“模倣”をベースにそれを自ら価値観を持って昇華させ新知見を生み出し社会に貢献することではないかと考える。ここでフレッシューズ向け本特集の意義がみえてくる。先輩たる皮膚科鉄人達が自らモノにしたサブスペシャルティについて、一人ひとりを“模倣”つまり追体験し、ぜひ多くの鉄人の生き様を“盗む”ことで、未来の日本の皮膚科学を担う若い先生方が、皆唯一無二な存在となっていいただきたい。ただ“模倣”でも“盗作”でもないこの羅針盤は悲しいかな平凡な駄文となった。